

熊本県医師確保計画の概要（たたき台）

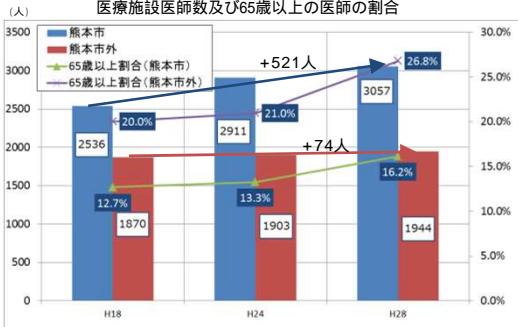
1 基本的事項

本県における医師の地域偏在は長年の課題であり、より実効的な医師確保対策を進めるため、医療計画の一部として、医師確保計画を策定する。
また、政策医療の確保等の観点から、産科・小児科に関する医師確保計画を策定する。
計画期間：令和2年度～令和5年度（4年間）

2 地域医療を担う医師を巡る現状・課題

(1) 現状

医師の地域偏在は拡大傾向
地域で勤務する医師は高齢化の傾向
医療施設医師数及び65歳以上の医師の割合



(2) 課題（要因）

専門医志向の高まり
地域では十分な症例が経験できないことから、専門医取得・更新に不安がある。特に20代ではその傾向が強い。
勤務環境に対する不安
常勤医が少ないことによる当直負担や過酷な勤務環境に対する不安がある。また、女性医師は地域勤務と育児の両立に不安がある。
生活環境に対する不安
子どもの教育環境への不安や家族の理解が得られない状況がある。

【参考】医師多数・少数区域、少数スポットの設定状況

医師偏在指標	全国順位	多数区域	少数区域	少数スポット
全国平均	238.6	-	-	-
熊本県全体	252.2	14	-	-
熊本・上益城	339.5	18	-	-
宇城	223.0	269	-	-
有明	204.0	166	-	-
鹿本	179.4	202	-	-
菊池	167.8	207	-	-
阿蘇	166.7	282	-	-
八代	165.6	109	-	-
芦北	157.7	80	-	-
球磨	145.2	212	-	-
天草	139.4	238	-	-

医師少数スポット設定基準: 次の 又は を満たす医療機関の周囲4km以内
へき地診療所 他の二次救急病院までのアクセスに30分以上要する二次救急病院

3 医師確保の方針（目指す姿）

県全体
熊本県の地域医療や医師偏在の状況等を踏まえ、大学病院、県医師会、関係医療機関及び県がオール熊本で、地域医療を担う医師が安心して勤務しながらキャリアアップできる環境を整備することで、地域に定着する医師を増やす。
各圏域の現状や課題を十分に分析した上で、各圏域が目指す将来の地域医療の姿を見据えながら、医師確保対策を進める。

各圏域
各地域において目指すべき将来の地域医療の姿を描き、その実現のために必要な医師の育成・確保を地域全体で進める。
そのために、各医療機関が勤務環境の改善に取り組むとともに、圏域における地域医療拠点病院を中心に、医師が地域勤務とキャリアアップを両立できる環境を構築する。

4 今後の施策の方向性

施策の方向性	現在の取組内容	今後必要となる視点																			
<p>(1) 地域医療を志す医学生・医師の養成</p>	<p>自治医大生、地域枠学生など将来地域で勤務する医学生の養成（地域医療ゼミ、夏季実習等）</p> <table border="1"> <caption>H31.4月現在 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">自治医大</th> <th colspan="3">医師</th> <th rowspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>学生</th> <th>熊本市内勤務(専門研修等)</th> <th>熊本市外勤務</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>14</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>45</td> <td>16</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>77</td> </tr> </tbody> </table> <p>地域枠医師数（初期臨床研修医を除く）のピークは57人（令和7年度）</p> <p>地域勤務医師へのキャリア形成支援 （キャリア形成プログラムの作成、地域医療支援機構による面談・助言等） 総合診療専門医養成体制の充実 （教育拠点（玉名、天草）における総合診療医の養成）</p>	自治医大	医師			計	学生	熊本市内勤務(専門研修等)	熊本市外勤務	15	6	4	14	39	45	16	9	7	77	<p>熊本県地域医療連携ネットワークの構築</p> <p>熊本県地域医療支援機構による全体調整の下、県、県医師会、熊本大学病院が連携し、各圏域の地域医療拠点病院が中心となって行う医師の確保や育成に資する次の取組みを支援</p> <p>医師の専門性向上に向けた環境整備</p> <p>勤務環境の改善に向けた取組み</p> <p>地域内の医療機関への医師派遣</p>	<p>地域に定着する医師を育成・確保するために・・・</p> <p>例えば、</p> <p>医師を目指す高校生に対する地域医療の魅力発信が必要か。</p> <p>今後増加する地域枠医師等へのキャリア形成支援の充実が必要か。</p> <p>地域で安心して勤務できるよう、個々の医療機関の勤務実態に応じた支援が必要か。</p> <p>社会医療法人など民間医療機関の活力を更に生かすことが必要か。</p> <p>定年等により退職した医師の活力を生かすことが必要か。</p> <p>特に不足する診療科については、県外の中堅医師を呼び込む施策が必要か。</p>
自治医大	医師			計																	
	学生	熊本市内勤務(専門研修等)	熊本市外勤務																		
15	6	4	14	39																	
45	16	9	7	77																	
<p>(2) 地域で安心して勤務しながらキャリアアップできる環境の整備</p>	<p>地域の医療機関の勤務環境改善に向けた取組みの支援 （医療勤務環境改善支援センターの相談体制強化、アウトリーチによる訪問支援、病院向け説明会(10回) Drプール制度によるへき地勤務医師への支援） 女性医師の就労継続・復職の支援 （病院への院内保育所設置支援（設置済：67 / 213病院）、時短勤務制度・留守番医制度、メンター制度の実施） 地域の拠点病院等における研修・教育体制の整備 （指導医養成、地域における臨床研修医の確保支援）</p>	<p>くまもとメディカルネットワークを活用した地域の医療機関間の連携強化等</p>																			
<p>(3) 将来の地域医療の姿を見据えた医師派遣</p>	<p>自治医大卒医師、地域枠医師、寄附講座所属医師の派遣 社会医療法人等からへき地診療所への医師派遣調整 （へき地医療支援機構による派遣調整を実施（R1派遣先医療機関数：8医療機関）） 地域勤務を希望する医師の就業あっせん （県ドクターバンクによるあっせん数（R1）：2人） 人口減少などを踏まえたへき地診療所等への医師派遣のあり方の検討</p>																				

今後目標医師数（他の都道府県の状況等を踏まえて設定）、産科・小児科に関する医師確保計画の内容を追記